

環境と健康



開講あいさつをする佐藤理事長(上)、閉講式で修了証を受け取る尾道市公衛協村田理事長(下)

福山市に150人が参集 体験交流を通して活動を活性化

環境保健夏季大学(合同研修)は、市町公衛協推進委員、事務局担当者を対象とした1泊2日の宿泊研修で、体験交流を通して今後の環境保健・公衆衛生の向上と活動の活性化をねらいに開催し

ています。今年7月6日、7日に開催し、ツネイシマなみビレッジ(福山市沼隈町)に県内各地から約150人が参集しました。

1日目は、公衛協の活動を紹介するポスターセッション、広島県環境保全課木村氏から「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」、広島県がん対策課佐矢野氏から「広島県のがん対策」6つの柱で日本のがん対策」と題した情報提供をしていただいたのち、5つのグループに分かれて当協

会が提案・推奨する全県共通事業重点メニューの情報交換を行いました。2日目は、リーダーシステムに関する組織力診断を各自で行い、当協会から「平成27年度に実施した組織力診断の報告と協会の処方箋」と題した情報提供ののち、3つのグループに

分かれて組織力診断の結果を基にした情報交換を行いました。情報交換では、「えんたくん(直径1.5mのダンボール卓)」を使い、4、6人の小グループに分かれて、活動の現状や問題点、課題などを話し合いました。少人数で膝を突き合わせることで、

活発な意見交換ができたようです。最後に、重点メニューの一つである「1万人の食チエック事業」のお楽しみ抽選会を行いました。

閉講式では、参加者を代表して尾道市公衛協の村田吉三理事長に修了証が授与され、全日程が終了しました。(地域活動支援センター)

「瀬戸内における水環境を基調とする海文化」の取り組みについて

①はじめに
瀬戸内海環境保全協会(以下、「瀬戸協」といいます。)では、平成24年度から海文化委員会を設置し、情報収集、情報発信を行っています。これまで、食文化、伝統行事、石の文化・塩の文化について取りまとめてきました。「海文化」の取り組みの背景などを含め、その内容について数回にわたり紹介します。

②「海文化」に取り組むこととなった背景
瀬戸協の設立35周年を契機に「社団法人瀬戸内海環境保全協会あり方検討会」を設置し、事業内容の見直し、今後の協会運営について検討を行い

ました(平成22~23年度)。その中で「瀬戸内海」の保全・創造に対する意識の高揚を図る新たな試みとして、「水環境を基調とした海文化検討会(仮称)」を設置し、瀬戸内海の海文化について瀬戸内圏住民にアピールする取り組みを進めることとなりました。「海文化」を切り口として、水環境の保全の大切さをアピールしていくため、情報発信などを中心とした取り組みを進めます。

③取りまとめの状況
これまでに情報収集を終え、冊子に取りまとめたもの、今後の予定等は下表のとおりであり、冊子化したものは、ホームページで公開しています。(普及啓発・活動支援 → 瀬戸内における水環境を基調とする海文化 <http://www.seto.or.jp/promotion/bunka>)

瀬戸協の総会時特別講演や40周年記念事業などの機会に食文化や海文化について、鷲尾先生から講演していただきました。

(公益社団法人瀬戸内海環境保全協会)

海文化の区分と取り組み状況

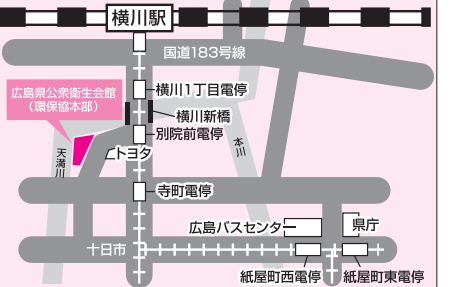
海文化の区分	関連項目・具体例	取り組み状況
食文化	主な漁獲物、ブランド魚介類、ブランド加工品、料理、伝統漁具、漁法、地域固有の食文化	平成27年7月発行
伝統行事		平成28年3月発行
石の文化・塩の文化	石材利用、製塩方法	平成29年上期発行予定
自然景観と文化景観	藻場、干潟、浅場の保全等、希少種	平成29年度に取り組み
	海・浜辺の環境保全等(多島海美、白砂青松、海水浴場、希少種)	平成30年度予定
	身近な景観の保全等(街並み景観、航路、段々畑等)	平成31年度予定

がんせんか
琴線歌
わが国の検診は、1940年代頃から結核や寄生虫などの伝染性の病気を予防することを目的に始まりました。しかし、国民の課題となる病気の気の変遷にともない大きく変化してきました。今では、がんは国民の2人に1人が罹患(りかん)する病気と云われています。がんの検診は、厚労省の検討会で科学的根拠に基づいて検証され有効性を評価して、対象者や実施間隔、検診方式などが決められて、全国各地で行われています。がん検診は、がん予防の重要な柱として位置付けられています。最近では、肝臓がんや子宮頸部がんは、その多くがウイルスの影響が原因であることが明らかになりました。これらのウイルス駆逐により、がん対策は大きく変わってきます。肝炎ウイルス検査やヒトパピローマウイルスの検査が大切です。また、胃がんの原因の二つとしてヘリコバクターピロリ菌が考えられるよう

これから
の健診・検査
増進活動が行われています。こうした健康づくりの制度も10年を経て、平成30年度から運用も見直しがされます。効果のある健診活動を展開することが求められる中で、全国の健診機関は共同体を組んでさまざまな意見交換をしながら、健康増進機関へと変化して、受診者の皆さんに満足いただける体制づくりに取り組んでいます。(公益財団法人予防医学事業中央会事務理事・事務局長 山根則幸)

おかげさまで60年
住みよい未来をこれからも

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会
〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520
基本理念 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。



環境保健夏季大学 分科会報告

重点メニューと公衛協組織の課題を共有

環境保健夏季大学のねらいである「活動を盛り上げるために必要な知識や方法論を学び、体験交流を通して、今後の環境保健・公衆衛生の向上と活性化を図る」ために、参加者相互の意見交流・情報交換を積極的に行う「分科会」を実施しました。分科会のテーマは、1日目に「全県共通事業重点メニュー」を、2日目に「これからの公衛協に必要な活動」を掲げ、少人数のグループに分かれて意見交換を行いました。

「全県共通事業重点メニュー」

初日の「全県共通事業重点メニュー」では、現在実施している5つの重点メニュー万人のエコチェック事業、公衛協発・ひろしま美化大作戦、1万人の食チェック事業、公衛協発ウォーキング事業、「がん検診へ行こうよ！」キャンペーン事業)の内容について確認した後、提示されたキーワードについて「実践事例」「課題とその解決方法」などを

「これからの公衛協に必要な活動」

2日目の「これからの公衛協に必要な活動」では、まず始めに参加者

が地元公衛協の「組織力診断」を行いました。「組織力診断」とは、それぞれの組織の「ひと・かね」について「リーダー」「システム」「メニュー」「財源」の4つの柱で現状を自己診断するというものです。今回は、ひとに関わる「リーダー」と、もの(仕組み)に関わる「システム」について、自己診断を行いました。チェックする項目によつては、コミニティレベルでの活動を把握できていないものがあり、自己診断に苦慮した参加者も多く

自由語り合いました。約1時間の短い時間でしたが、参加者からは「他団体の活動方法や実態を知ることができた」「来年度の運営に役立つ」「参加者を広げる方法等、思いつかない意見が出た」などの声が聞かれ、活発に意見交換が行われた様子が伺えました。

できたなどの声が聞かれ、現状を把握することができたようでした。その後、組織力診断の結果を受け、各公衛協が直面している課題やその解決方法、アイデアなどを共有するため

第56回環境保健夏季大学 情報提供

①瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画について

平成27年2月に瀬戸内海環境保全基本計画が変更されたことに伴い、平成28年10月に「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」を変更。平成28年度から37年度を計画期間とし「美しく恵み豊かな瀬戸内海の実現」を基本理念に、多様な主体により「里海づくりが継続されている」ことを目指します。

具体的には、多様な生物の生息・生育の場の増加と質の向上を目的とした藻場や干潟の造成、計画的な海ごみの回収及び発生抑制対策、自主的かつ継続的な海岸等の清掃活動やエコツーリズムなどの推進、海底堆積物除去や水産資源の適切な管理などです。

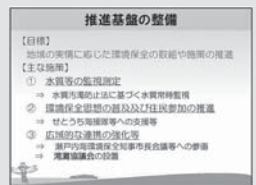
また、地域の課題に多様な主体が連携して取り組むため、平成29年4月、広島湾、安芸灘・燧灘、備後灘・備讃瀬戸の3区分に「湾灘協議会」を設置。沿岸住民や公衛協、漁業者、市町、県、国などで構成し、情報共有や意見交換等を通じて、具体的な改善策を検討していきます。協議会構成員である公衛協の積極的な参画が呼びかけられました。

②広島県のがん対策
～6つの柱で日本一のがん対策～

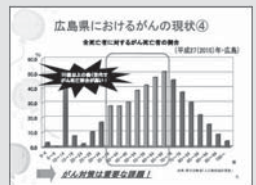
広島県における年間死亡者数の約3割を占める「がん」。平成25年3月に、平成25年度から29年度を計画期間とする「広島県がん対策推進計画(第2次)」を策定し、たばこ対策の強化やがん検診の受診率向上、がん情報ポータルサイト「広島がんネット」による情報提供などに取り組んでいます。

たばこについては、健康被害が問題となっている「受動喫煙」防止対策を推進するため、平成28年4月から、広島県がん対策推進条例により、施設管理者がとるべき措置を義務化し、公園等の利用者には喫煙しないことなどを努力義務化しました。

また、がん検診受診率向上に向けて、「がん検診へ行こうよキャンペーン」による啓発、市町が行う検診の受診勧奨に係る経費の支援や勧奨用資料の無料提供、「ひろしまがんネット」による検診情報の広報などを進めています。「がん対策日本一」に向けて、連携しながら対策に取り組ましようと呼びかけられました。



広島県
環境保全課
事業調整員
木村 伸一 様



広島県
がん対策課
主幹
佐矢野 忍 様



えんたくんを囲んでテーマについて意見交換(上)、グループで出た意見や感想を発表する参加者(中)、自己診断のイメージ図(レーダーチャート)(下)

「システムに関する」とのテーマ別に少人数のグループで意見交換を行いました。「地区での活動を聞き、参考になった」「地域によっていろいろ悩み、問題があることが改めてわかった」「いろいろな意見を聞く中で、ヒントが見つかった」など、意見交換から多くのヒントが得られたようでした。今年度も、意見交換を充実に行うための仕掛けとして、昨年度から活用している「えんたくん」が大活躍！「えんたくん」はグループワークを促進するツールで、

参加者が円形に座り、膝の上に直径1メートルのダンボール板を置いてテーブル代わりに使うというものです。話し合うのに程よい距離感演出でき、ダンボールの上に敷いた紙にメモを書きます。この夏季大学で「えんたくん」を利用した意見交換が気に入る、購入した公衛協があるほど、「えんたくん」を使った意見交換が浸透しています。

○平成29年度的全県共通重点メニュー

事業名	内容
1万人のエコチェック事業	県内の公衆衛生推進協議会や公衆衛生推進委員会を中心に、家庭のエネルギー削減運動を展開。その一歩として推進委員が家庭の省エネに挑戦し、削減効果を数値的に把握・評価(見える化)し、脱温暖化活動の基盤づくりを目指す。実践率50%を目標とする。
公衛協発ひろしま美化大作戦	地域清掃・美化や水質改善・水質保全、里地・里山づくりなど、地域で展開する環境保全活動の継続と促進、活動実績の集積とPRを行うことで、次世代にすばらしい環境を残していく。集積した活動記録は広島県(湾灘協議会)に報告するなど、広く活動をPRしていく。
1万人の食チェック事業	県内の公衆衛生推進委員会が主体となり、日々の食事のバランスチェック運動を展開。強化期間と食育の日(毎月19日)に定期的にチェックすることで、健康づくりと食生活の改善に繋げる。国の重点課題「健康寿命の延伸につながる食育の推進」に係る取り組み。
公衛協発ウォーキング事業	「環境」と「健康」の視点を持ったウォーキング事業を実施。市・町民の健康づくりの動機付け・習慣づけにつながるよう、公衛協が主催して行う。県の計画「健康ひろしま21」の目標「ライフステージに応じた運動習慣の定着」を図る取り組みとして展開。
「がん検診へ行こうよ!」キャンペーン事業	「第2次広島県がん対策推進計画」の「あなたが取り組む予防と健診」に基づき、公衆衛生推進協議会が中心となつてがん検診の受診率向上を目的とした【受診勧奨キャンペーン】を全県的に展開する。

床面に大きく作ったあみだくじを使うCOOL CHOICEで、今日の取り組みをチェック!



2017ひろしま温暖化ストップ!フェア きてみんさい!シャレオでクールシェア 小さな取り組みの広がり、継続に期待



7月28日、広島市の地下街シャレオ中央広場で「2017ひろしま温暖化ストップ!フェア」(主催:広島市地球温暖化対策地域協議会・広島市)が開催され、約3千9百人が参加しました。

午前11時、主催者のあいさつの後、ステージでは広島市消防音楽隊の演奏が行われ、午後はサンフレッチェ広島アンバサダーの森崎浩司氏によるトーク&サイン会、江波山気象館による科学実験教室や、フランダース・ヒップホップダンスでにぎわいました。



シール貼り付け型アンケートで、日頃の取り組み状況を再確認

広島市地球温暖化対策地域協議会は、家庭の省エネ相談、ecoチャリワーキンググループの活動紹介のほか、会場内の各ブースを回るクイズラリーを開催し、175人が参加しました。広島県・ひろしま地球環境フォーラムは、う

ダンスでにぎわいました。

ブースエリアでは、昨年同様「きてみんさい!シャレオでクールシェア」をキーワードに、団体、企業や行政機関など11ブースが設けられ、夏の過ごし方の提案をはじめ、家庭での省エネ取り組み事例、省エネ機器の紹介、環境に関する啓発展示や参加型のイベントなどが行われました。民間企業のブースでは、ネットゼロエネルギーハウス(NEH)の紹介や燃料電池キットによる発電実演が行われたほか、環境への取り組み紹介や啓発パネル展示が行われました。

ちエコ診断を行いました。事前に予約のあった4組と、当日参加5組の計9組に、各家庭に合った効果的な省エネ対策を提案しました。

脱温暖化センターひろしまは、クールチョイスの紹介パネルを展示し、COOL CHOICE占いを体験してもらいました。また、ブースを訪れた約190人に、シール貼り付け型のアンケート調査を行い、身近な取り組みの実践をお願いしました。

一人ひとりの小さな取り組みが広がり、つながり、継続することを期待します。

このコーナーでは、【買い替え】、【サービス】、【ライフスタイル】の3つの視点で、さまざまなクールチョイスの事例を紹介します。

【買い替え】省エネで高効率な家電、設備、建築物の低炭素製品への買い替えなど
【サービス】公共交通の利用やエコレールマークの付いた商品、グリーン電力の選択やスマートメーターによる「見える化」につながる低炭素サービスの選択など
【ライフスタイル】家庭でのエネルギー消費量・二酸化炭素排出量を減らす取り組みやエコドライブなど



私のクール
チョイス⑦

【ライフスタイル】(エコタップや断熱シートの活用)

府中町脱温暖化市民協議会代表、公衛協で活動しています。家庭では、エコタップや断熱シートの活用のほか、省エネ機器への買い替えも進めています。協議会では、緑の仲間フェスタの開催、環境家計簿の推進、出前講座のほか、緑のカーテン普及活動に力を入れており、例年10月のつばき祭りで緑のカーテンの表彰を行います。

高齢化が進み、取り組み協力や参加はあるものの、積極的な活動、新しい活動がなかなか広がらないこと、人材、財源の確保が課題です。

長く活動に参加してくれている人を大切にして活動を広げる原動力とし、新しい活動企画や活動だよりの発行、参加者同士のつながりを深めていきたいと思います。

(村竹 玄三男さん/府中町脱温暖化市民協議会会長・府中町公衆衛生推進協議会)

【ライフスタイル】(分別、資源リサイクルの徹底)

呉市公衛協の環境部会に所属しています。広地区はごみステーションの管理、一斉清掃のほか、学校・児童と協働で地域クリーン活動をしています。また、資源回収にも力を入れており、公衛協を含む自治活動の財源となっています。

我が家では、毎月1回行う資源回収のため、日頃からしっかり分別を行っています。また、奥さんはごみ減量、特に生ごみの水切りを心がけています。呉市では、公衛協、自治連の活動が密接に関わっており、普段は自治会単位で活動していますが、どうしても世帯数の多い街中とその他の地区で、取り組みに差ができます。地区の活動成果を振り返り、連合会で報告しあいながら、全体の活性化を図っていききたいと思います。(古谷 哲さん/呉市公衆衛生推進協議会理事[環境部会])

【ライフスタイル】(徒歩、自転車健康維持)

環境協理事長、瀬戸内海環境保全協会副会長、ひろしま地球環境フォーラム副会長として、組織の運営に携わっています。職場では、エレベーターを使わない、市内2km範囲は自転車移動をマイルールとし、全職員にもこまめなクーラー、照明オフの徹底を呼び掛けています。家庭では、照明、室温管理はもちろん、早寝早起き、図書館でのクールシェア、タラの打ち水などに取り組んでいます。家族の生活時間帯がバラバラで効果的な節電、省エネにつながらないのが悩みです。

クールチョイスは、健康維持やリフレッシュと組み合わせることで無理なく続けられます。みなさん一人ひとりが生活を見直し、自身の取り組みとしてもらえれば嬉しく思います。(佐藤 均さん/一般財団法人広島県環境保健協会理事長)

今回から、公衛協、TEAMで活躍されているみなさんと、環境協の役職員が日頃取り組んでいる「私のクールチョイス」を紹介していきます。

注目の中、おたのしみ抽選会がスタート



平成29年6月19日から25日の1週間、約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、毎日の食事とどんな食品を摂取したかをチェックする「1万人の食エック事業 強化期間」が終了しました。おたのしみ抽選会を行った7月7日現在で、提出された食エックカードは3千183枚でした。今回は提出されたカードの結果を報告します。

委員9千147人のうち、34.8%にあたる3千183人が参加し、昨年度の実践率(36.2%)を約1.5%下回りました。

公衛協別に見てみると、県内で最も高かったのが坂町で100%、次いで大崎上島町(88.2%)、竹原市(81.8%)となっており、昨年度と同様でした。昨年度と比較して実践率の上昇率が高かったところは江田島市(20.1%)、尾

食エック事業22公衛協が参加 健康づくりメニュー検討の材料に

道市(11.1%)、海田町(9.8%)でした。

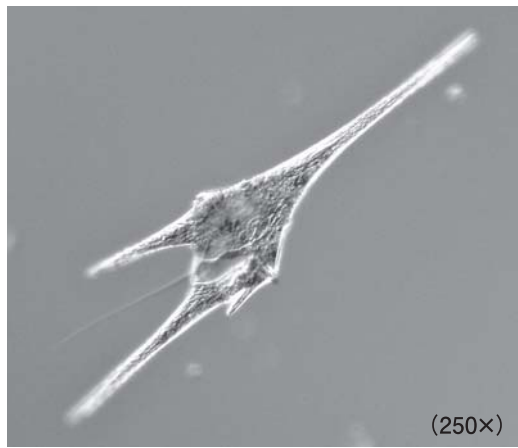
また、実践率50%を達成した公衛協は11団体で、昨年度と同じでした。今年度は、カードの提出方法に「カードをポストへ投函する(料金受取人払)」を導入し、実践率の向上を試みました。その結果、料金受取人払を利用した公衛協のうち、海田町で9.8%、三原市で8.2%上昇し、料金受取人払による提出方法の有効性が感じられました。

提出されたカードのコメント欄には、「バランスを気にしながら食べた」「たんぱく質、食物繊維を摂るようにして」

いる「など、バランスを意識して食事をした」とがわかりました。また、「偏っている」「副菜が不足している」など、食生活の課題が明らかになった人も多かったようです。

カードに記録された結果は現在集計中で11月の専門部会(健康部会)で詳細を報告する予定。特に、今年度からの目標である「主食・主菜副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人の割合70%以上」に対して、どのような現状なのか、注目していきたいと思っています。

(地域活動支援センター)



Ceratium hirundinella(ケラチウム)は、湖沼や貯水池などで普通に見られる藻類。増えすぎると淡水赤潮の原因となる。

藻類の調査で水環境をモニタリング 水道水の安全安心に貢献

環保協の
環境生活
センター
⑧ 水道事業課

環境生活センター水道事業課では、主に水道水やそのもととなるダム水や河川水の調査などを行っています。ダム水や河川水の部は浄水場に取り入れられ、適切な処置がされた後に私たちが日ごろ利用している水道水となります。今回は、水道水のもとになるダム水や河川水に含まれる藻類を中心に話します。

藻類は、動物プランクトンや水生昆虫、魚類の餌となり、生態系の中では次生産者として重要な役割があります。そのほか、光合成による酸素の発生で、水の浄化にも寄与しています。

一方ダムなどの富栄養化がすすみ藻類が増殖すると、アオコや赤潮といった現象を引き起こしたり、浄水場のろ過閉塞や異臭味障害など、さまざまな問題の原因となることがあります。また、ある特定の藻類が出す物質によって、カビのようなにおいを生じること知られています。

私たちは、ダムや河川に生育する藻類を定期的にモニタリングし、異常が見られたときには緊急対応がとれるよう、日頃から監視を続けています。藻類を調べること、浄水場での対策が必要か判断する材料とし、私たちに安心な水道水づくりに貢献しています。

これらとは別に、藻類は水環境の状況を推測するための指標生物という側面も持っています。化学分析のように、ある瞬間的な水質を調査するのではなく、空間的、時間的変化を含めた水環境の総合結果として、水質評価によく利用されます。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。



顕微鏡を使い、藻類を調査・同定する当協会職員

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

藻類は、生態系の中で重要な役割を担っている方で、増えすぎると私たちの生活に悪影響を及ぼすこともあります。水道事業課では、藻類の調査を通じて、環境や水道水の保全に関わり、私たちの身近な生活の安全安心に貢献しています。

県は、食品衛生基準を満たした製造・加工施設について、独自に認証する制度を実施しています。適合した施設は、商品に『認証マーク』を貼ることができます。当協会は認証機関として、食品衛生管理の認証・更新審査や指導などを行っており、このシリーズでは、当協会が認証した事業者の声を紹介し、食品衛生管理の重要性を伝えていきます。



農業を問わずに栽培された川根産柚子を、商品開発・製造・販売を行っています。素材の香りや味を大切にしながら、飲料や調味料、ケーキを製造しています。

また、組合員と川根柚子ブランドを育て、過疎対策など地域の活性化を目指しています。■認証取得のきっかけと取り組み

衛生管理についてはさまざまなことに取り組んでいます。一番のポイントが、一人がスペシャリストではなく、みんなができるように学習・実践

衛生管理についてはさまざまなことに取り組んでいます。一番のポイントが、一人がスペシャリストではなく、みんなができるように学習・実践

衛生管理についてはさまざまなことに取り組んでいます。一番のポイントが、一人がスペシャリストではなく、みんなができるように学習・実践

人に見えないことを大切に。

従業員が同じレベルで衛生管理

⑤ 川根柚子協同組合



認証日:平成29年6月8日
所在地:安芸高田市高宮町川根
2253-4
創業:平成22年2月8日
話し手:製菓主任
熊高 真奈美 様

する興味関心の高まりを感じていたとき、県の認証制度を知り、取り組みが始まりました。今年度は「菓子製造業部門」で認証を取得しています。

自ラ設定した衛生管理の拡大と、認証取得時に構築したHACCPの仕組みをすべての認証に水平展開を行います。

また、川根柚子ブランドは、おかげさまで多くの方に認知いただくようになり、元気がもつようになり、事業を継続していきます。引き続き川根柚子をよろしく願います。

記事・馬場田
HACCP(ハサップ)国際的に導入されている衛生管理手法。

平成20年度に始まった『環境啓発ポスター・標語コンクール』は、今年度10周年を迎えました。それを記念して県内各地で巡回展示会を開催します。

第1弾として福山市公衛協が6月22日～30日の9日間、市役所ロビーで開催し、枝廣市長、市役所を訪れた市民をはじめ受賞者のご家族や市役所職員が児童・生徒の力作を鑑賞しました。作品展を見に来た受賞者のご家族は、「受賞したときは小学1年生、現在は高校生です。息子はあの時のことを今でもよく覚えていて、他の生徒が描いたポスターに関心を持って見ているようです。」(H21年度ポスター・小学校低学年の部・最優秀賞)、「家族で見に来ました。息子は高校生で応募できませんが、小学4年の妹が「今年の作



③4 福山市

ポスター・標語コンクール 10周年記念巡回展示会



展示会場を訪れ、10年間の受賞作品を見る市民

品品のヒントにしたい。」と、言っていました。」(H22年度ポスター・小学校低学年の部・最優秀賞)、「家族で見に行きました。孫は受賞後、環境に興味を示すようになり、食事のときも時々環境の話が出るので、表彰はインパクトがあったようです。」(H28年度標語・小学校高学年の部・奨励賞)と、感想を話されていました。

ポスター・標語を通じて環境啓発する子どもたちの作品の展示は、第2弾として、7月24日～28日に竹原市公衛協が市役所ロビーで、8月1日～10日まで廿日市市大野公衛協が大野市民センターで展示会を開催しました。その後も各地で開催を予定していますので、ぜひ足を運んで子どもたちの作品をご覧ください。

(地域活動支援センター)



清掃前の海岸の状況(上)、清掃後の海岸の状況(下)

7月2日(日)に「大崎上島・竹原海岸GOMIゼロ大作戦」が開催され、約300人が参

大崎上島・竹原海岸GOMIゼロ大作戦

取り組みの拡大や効率化を模索



大串海岸清掃

大崎上島町の清掃会場は大串海岸と野賀海岸で、公衛協はもちろん、町長、副町長をはじめ役場職員、広島商船

が協力して実施しました。この取り組みは、昨年に引き続き、「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」の関連事業として、大崎上島町と竹原市が同時に実施しました。このうち、大崎上島町では、公衛協が協力して実施しまし

加しました。

この取り組みは、昨年に引き続き、「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」の関連事業として、大崎上島町と竹原市が同時に実施しました。このうち、大崎上島町では、公衛協が協力して実施しまし

大崎上島町の清掃会場は大串海岸と野賀海岸で、公衛協はもちろん、町長、副町長をはじめ役場職員、広島商船が協力して実施しました。この取り組みは、昨年に引き続き、「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」の関連事業として、大崎上島町と竹原市が同時に実施しました。このうち、大崎上島町では、公衛協が協力して実施しまし

「大崎上島町は、メディア露出が増えている。来島者には、『来てよかった。きれいで居心地の良い島だった。』と思っていきたい。引き続き、行政やさまざまな団体・住民が協力して活動できる「コミュニティ」を維持していきたい。」と大崎上島町公衛協の梅澤会長は話されました。

参加者は、会場の隅々まで目を光らせてゴミを集めていました。最も多く集まったゴミは、漁業で利用される塩化ビニール製パイプや発砲スチロール製フロートでした。また、ペットボトルや空き缶などの生活ゴミも多く集まりました。

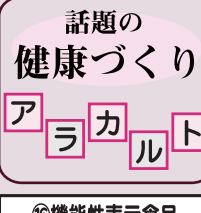
高等専門学校や海星高校の生徒、地元住民団体、住民など141人が参加し、約1時間かけてゴミ捨てや打ち上げられた人工物を清掃しました。

広島県では、計画の目標を達成するため、多様な主体が連携し、清掃活動を楽しむ要素を取り入れ、自主的な活動の輪が広がっていくことを目指しています。

また、地域によって漂着物に関わる課題、効果的な回収・処理の方法、時期などが異なるため、県内47カ所の重点地域を設定し、個別に実施計画を策定しています。

公衛協のこれまでの経験を活かし、市町や他団体との連携、清掃以外の活動の工夫など、県内の美化活動がより一層活性化することを期待します。

(地域活動支援センター)



保健機能食品には、国が有効性や安全性を個別に審査し許可した「特定保健用食品(トクホ)」と、国が定める特定の栄養成分の基準に適合した「栄養機能食品」に、新たに「機能性表示食品」が加わり2年が経過しました。「機能性表示食品」は、安全性や機能性に関する科学的根拠を消費者庁に届け出れば、事業者の責

まずは食生活の見直しを

情報を確認し上手に活用

するものがあります。食品の区分は加工食品が最も多く、次いで加工食品のうちサプリメント形状のもの、生鮮食品と続きます。生鮮食品では、骨の健康に役立つ

機能性表示食品は、薬のように疾病の治療や予防を目的にしたものではなく、あくまでも食品です。まずは食生活を見直し、主食と主菜・

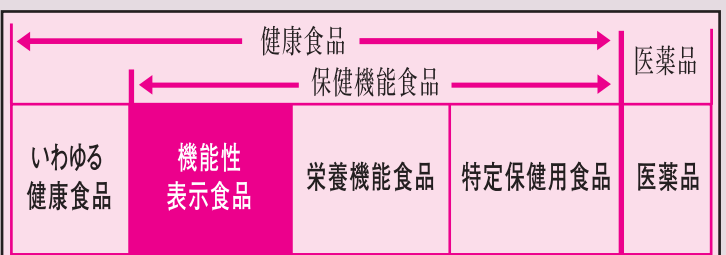
次に、情報の有効活用です。事業者が消費者庁に届け出た機能性表示食品の内容は、同庁のホームページで公表されているので、チェックしてみましょう。また、

任で健康の維持・増進に役立つ食品の機能性を表示できます。生活習慣病予防に関するものの他、整腸や目・肌・関節の健康、快眠、ストレスや緊張の緩和に関

みかんや大豆もやしに届くがあり、今後コンビニなどの栄養価が高い農産物の開発に期待がかかっています。

今回は「機能性表示食品」の活用方法について、副菜のそろった食事をする1日2回以上とりましょう。栄養素をバランス良く摂取していなければ、いくら特定の成分を摂取しても十分な効果は期待できません。

食品には機能性の他に、「摂取目安量」や「摂取方法」など適切に利用するための情報も記載されています。表示をしっかりと確認した上で利用しましょう。そして、もし体調に変化があったら速やかに摂取を中止し、医師に相談しましょう。



よう。
(健康増進課 管理栄養士 西川真由子)

更年期になると、卵巣から分泌される女性ホルモン(エストロゲン)が減少します。その結果、ホルモンバランスの乱れが原因の、身体的、精神的不調といった更年期障害が起こります。



ン様作用に優れていて、スーパーイソフラボンと呼ばれています。更年期障害の改善、生活習慣病や骨粗鬆症の予防、肌の健康を保つなど、うれしい効果が

女性の元氣と若々しさを保つ物質

大豆は女性の頼れる味方

以前から、大豆イソフラボンが、女性の健康に有用なことはよく知られています。これは、大豆イソフラボンの構造がエストロゲンと似ているため、体内に入るとエストロゲンと似たような働きをするためです。

最近の研究で、その効果を得やすい人とそうでない人がいることがわかってきました。その違いは、エクオールを作り出すエクオール産生菌という腸内細菌を持っているかどうかです。エクオールは、大豆イソフラボンの中のダイゼインが、エクオール産生菌により変換された代謝物です。エクオールは、大豆イソフラボンよりもエストロゲ

あります。エクオールの産生に必要な腸内細菌を持ち、体内でエクオールを作り出せる人は、日本人女性では、ほぼ二人に一人で、若い世代では2割に下がります。要因の一つとして、豆類の摂取量が減少している影響が考えられています。

エクオール産生には、大豆や大豆製品を毎日食することが大切です。そして、腸内環境を良好な状態に保てるように、食物繊維、オリゴ糖を含む野菜もしっかり取りましょう。また、体内でエクオールを作れない人は、エクオール産生菌があまり活動していないためです。時間はかかりますが、食生活を見直し、腸内環境を改善していくことが大切です。サプリメントによる補充も効果があります。

性では、ほぼ二人に一人で、若い世代では2割に下がります。要因の一つとして、豆類の摂取量が減少している影響が考えられています。

エクオール産生には、大豆や大豆製品を毎日食することが大切です。そして、腸内環境を良好な状態に保てるように、食物繊維、オリゴ糖を含む野菜もしっかり取りましょう。また、体内でエクオールを作れない人は、エクオール産生菌があまり活動していないためです。時間はかかりますが、食生活を見直し、腸内環境を改善していくことが大切です。サプリメントによる補充も効果があります。

当クリニックでも、エクオールが作られているかどうか、尿で検査することができますようになりました。女性の方は、調べてみてはいかがでしょうか。

(健康クリニック)



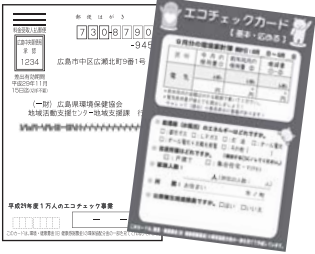
公衛協事業とイベント(9月～11月)

9月12日	アイドリグストップ運動(大崎上島町)
9月24日	おおたけクリーンキャンペーン(大竹市)
9月24日	かんきょうまつりinあきたかた(安芸高田市)
	第13回「エーコと瀬野川環境フェア」(海田町)
	空き缶等散乱ごみ追放キャンペーン(海田町)
10月1日	はつかいち環境フェスタ(廿日市市)
10月7日～8日	市民健康&福祉まつり(府中市)
10月8日	第11回安芸太田ウォーキング大会in深入山(安芸太田町)
10月15日	ふくやま環境フェスタ
	ヒロシマMIKANマラソン(江田島市)
10月22日	リサイクルまつり(廿日市市佐伯)
	健康ふくやま21フェスティバル(福山市)
10月28日	三原健康福祉祭り(三原市)
10月下旬	ふくやま環境フェスタ
	市民ふれあい親子ハイキング(大竹市)
11月11日	第21回コイ・こいフェスティバル・イン・おおたけ(大竹市)
11月12日	創立60周年記念式典(尾道市)
	第35回おのみち市民健康まつり(尾道市)
	アイドリグストップ運動(大崎上島町)
11月18日	庄原市リサイクルフェスタ(庄原市)
11月19日	みよし環境フェスタ
	フェスティバル江田島(江田島市)

平成29年度基本調査より

第24回広島みなと祭りカッターレース大会参加

7月22日、宇品の1万トンバースで開催されたカッターレース大会に、当協会有志2チーム18人が参加しました。この催しは、「広島港に憩い・やすらぎ・賑わいを!」をテーマに開催され、今年は、海好きの人や海に関係した仕事を持つ人など39チームがエントリーしました。360mのコースを8人1組で競うタイムレースを行い、当協会は「みなと賞」を受賞しました。当協会は、引き続き、豊かな瀬戸内海の保全や地域の活性化など、地域のお役に立てるよう努めてまいります。



8月から9月は、1万人のエコチェック事業の省エネ実践月間です。公衆衛生推進委員の皆さまは省エネに取り組む、その成果を記録・確認してみましょ。電力会社から送付される『9月分の電気使用量のお知らせ』とエコチェックカードを準備してください。電気使用量のお知らせには、検針

期間に利用した電気使用量・前年同月・前月の電気使用料金が示されています。エコチェックカードに必要な事項を転記してください。深めるコースに取り組む公衛協は、ガス・灯油・エネルギーの消費量を把握にも挑戦しましょう。記入されたエコチェックカードは、市町公衛協事務局へ提出をお願いします。カードの表面に宛名と切手不要と記載がある場合は、郵便ポストへ投函してください。皆さまのご報告をお待ちしています。(地域活動支援センター)

1万人のエコチェック事業「見える化」で脱温暖化家族で夏の省エネに挑戦

専門研修 広報・ツールづくりコース 参加者募集

公衛協活動への「理解・積極的な参画」を促すため、PRは欠かせません。皆さまの発信力強化につなげるため、従来の紙媒体をツールとした研修に加え、インターネット(FaceBook)を使った広報を学ぶ講座を追加しました。この

機会に広報力強化に取り組みませんか。参加希望者は、平成29年9月6日までにFAXまたは郵便でお申し込み下さい。いずれも定員30人(1団体3人まで)、参加費無料。公衛協、TEAMは旅費の支給あり。

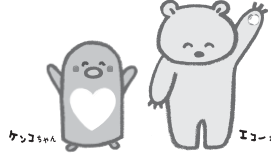
- ①チラシや団体通信(たより)作成編【西部会場】
開催日時:平成29年9月13日(水) 10:30～16:00
開催場所:公衆衛生会館(広島市中区広瀬北町9-1)
- ②Face book記者養成編【西部会場】
開催日時:平成29年9月14日(木) 10:30～15:30
開催場所:公衆衛生会館(広島市中区広瀬北町9-1)
- ③チラシや団体通信(たより)作成編【東部会場】
開催日時:平成29年9月15日(金) 10:30～16:00
開催場所:環境保健協会東部支所(福山市山手町5-32-26)



情報紙「環境と健康」読者アンケート投函のお願い

情報紙7月1日号(第594号)に折り込んでお届けした読者アンケートにご協力をお願いします。締め切りは過ぎていますが、お手元にアンケートがあればご記入いただき、9月15日必着でポストに投函してください。皆さまのお声を力に、よりよい情報紙となるよう努めてまいります。

平成29年度 地区衛生組織活動資金募集



通称『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成29年度で58回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円)



28,718,675

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府 中 町	1,196,000	71.7
海 田 町	1,979,981	82.5
熊 野 町	1,442,870	100.6
坂 町	0	0.0
江 田 島 市	1,829,500	98.7
竹 原 市	0	0.0
大 崎 上 島 町	0	0.0
大 竹 市	1,821,380	71.8
廿 日 市 市	2,538,900	74.9
廿日市市大野	2,505,050	99.1
廿日市市佐伯	0	0.0
廿日市市吉和	56,700	107.0
廿日市市宮島	193,100	94.8
安 芸 太 田 町	0	0.0

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北 広 島 町	641,200	58.6
安芸高田市	0	0.0
東 広 島 市	4,266,990	95.1
三 原 市	1,375,840	77.8
世 羅 町	420,800	46.3
尾 道 市	3,478,900	77.7
福 山 市	3,565,350	40.0
府 中 市	0	0.0
神石高原町	0	0.0
三 次 市	1,172,760	47.4
庄 原 市	164,900	6.5
呉 市	0	0.0
そ の 他	68,454	124.0
合 計	28,718,675	49.9

市町別一覧表

※この表は、平成29年7月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

公衛協に配分された募金は、環境づくりや健康づくりの事業に使われます。環境づくりでは、まつりの会場でごみの分別指導を行ったり、道路や河川の美化活動、不法投棄ごみの回収を行ったりしています。その他、脱温暖化の啓発活動や子どもを対象とした水辺教室の開催などを行っています。



まつりのごみダイエット作戦(三次市川西地区公衛協)



脱温暖化普及啓発(福山市道上学区公衛協)